

## 技術委員会より

## 技術委員会より

技術委員長 徳永 雅亮  
(明治大学兼任講師)

今年の夏は世界的に猛暑に見舞われています。特にモスクワでは森林火災が多発し、泥炭にも引火した結果、高温と有害ガス濃度の上昇に見舞われています。これも地球温暖化の一端が現れたせいなのか、単純な短期の気象のぶれなのか判断ができていないようです。

平成 22 年度の技術委員長を拝命しました徳永です。JABM は来年度、発足 30 周年を迎えます。JABM の前身であるプラマグ懇話会で大変お世話になった若いころを懐かしく思い出しています。

平成 22 年度の技術委員会の活動状況を報告します。まず、第 78 回技術例会は、「最先端の電子技術を支える軟質磁性ボンド材料」と題し、軟質磁性ボンド材料関連のテーマを中心に、9 月 16 日（木）に開催されました。電波吸収体、磁心材料、各種の圧粉磁心とその応用および圧粉磁心を用いた省レアアースモータについて計 6 件のテーマを各分野でご活躍の講師の皆さんにご講演頂きました。軟磁性粉もアモルファス、金属ガラス、Fe-Si と多種のものが実用化され、それぞれの材質の特徴を生かすレベルに達しつあるものと考えられます。これら軟質磁性ボンド材料の更なる高性能化と応用の深化が期待されます。

12 月開催の「BM シンポジウム」については技術委員会でもテーマ選定を急いでおります。本年度は異方性ボンド磁石、PM モータの動向、脱レアアースモータ、ワイヤレス給電、中国における永久磁石の動向等のテーマが挙げられております。本年度もより良いシンポジウムとすべく努力しておりますので、皆様の活発な参加をお願いします。

すでに恒例となりました「寺子屋 BM 塾」についてはすでに第 7 期講座が終了しております。詳細は浜野塾長による BM トピックスをご参照下さ

い。本講座ではモータの基礎を「とことん分かるモータの話」と題し、技術コンサルタントの谷腰欣司氏に 5 月 14 日、6 月 11 日、7 月 9 日の 3 回にわたってご講義頂きました。モータの動作原理、各種モータの特徴や応用面での必要性からモータが選択される過程等の勉強を楽しくできたものと考えています。本講義で永久磁石モータの優位性がどこに存在するのか、競合するモータが何なのか理解できたものと考えます。本年度後期の第 8 期講座は「徹底解剖:ネオジム焼結磁石」と題して、希土類焼結磁石に関する全体像の把握・理解を目的として開催します。講師は私が勤めさせて頂きます。内容はネオジム焼結磁石の磁気特性、製造方法およびその応用の全三講ですが、できるだけアナクロ化しないよう準備したいと思います。

見学会については HEV/EV 関連で 2011 年 2 月頃の実施を計画しています。

技術委員会内の議論としては BM ニュースの CD 化があります。CD 化に伴い広告の問題が浮上しています。印刷物の場合の広告は歴史も実績もある訳ですが、CD 化した場合どのように広告をすべきか、その広告で広告提供者の皆さんの納得・賛同が得られるかが議論の対象になっています。本件については編集委員会でも議論して頂き、結論を出してゆく予定です。

JABM 30 周年記念行事の準備委員長として藤平委員が就任されました。記念行事そのものは 2011 年 12 月開催の BM シンポジウムの際に行うことになっています。企業からの展示等を含めて検討を開始致しました。30 周年記念行事を JABM の将来に向けた有意義なものにしたいと考えています。皆様の積極的なご協力と参加をお願いします。

---

1970年代から2010年の概略40年間を見ますと、永久磁石のビジネス環境も大きく変化しました。欧米企業が本ビジネスから撤退し、中国が大きく台頭しました。日本のお家芸とも言われる永久磁石ビジネスが今後も中国の資源戦略に負けずに如何に生き残るか、重要な時期にさしかかっているように思えます。このような時期にJABMがどのような役割を果たすべきか難問を突きつけられているようにも感じております。協会員の皆様と議論し、より良いJABMとなるよう努力したいと考えておりますので、ご協力をよろしく願います。